

舞台技術管理課 照明・映像係
田中 涼子 (平成三十一年度入社)

学生時代からの憧れを現実に
LIVEの肌感覚や熱量を糧に日々成長



ある日のスケジュール

9:30
出勤

10:00
現場仕込み、リハーサル
合間に事務作業や電話打合せなど

13:00
お昼休憩

14:00
本番開始

16:00
終演、バラシ (片付け)

18:00
退勤
自宅で文鳥と戯れる♪

※取材時のみマスクを外しています



一財団を志望した理由を教えてください

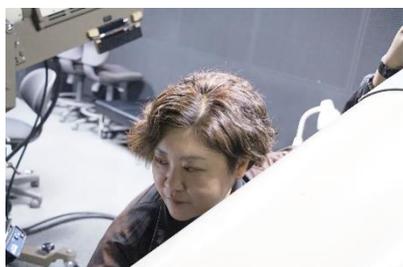
舞台関係の専門学校を卒業後、福岡で舞台技術の会社に入り、その後はフリーランスとして働いていました。そろそろ地元の北九州に帰ろうかな、と思っていた矢先に知人から北九州芸術劇場の事を聞き、受験しました。業界に興味を持ったのは高校生の頃で、ライブが大好きで椎名林檎さんのコンサートなどによく通っていて、自然と「コンサートや舞台に関わる仕事がしたい!」と思うようになりました。

一担当業務について教えてください

技術セクションは私の所属する照明・映像係のほか、舞台機構係、音響係の3係があり、全てのセクションが劇場で行われる「貸館事業」「自主事業」の両方に携わります。照明・映像係は現在8名で、「貸館事業」の場合は、主催者の方と打合せを行い、ご希望を伺いながらそのイメージを実現出来るよう提案を行ったり、当日のオペレーションを行ったりします。「自主事業」の場合は、各公演毎に“乗り込み”という公演付のスタッフさんがいる場合が多いので、そういった方々のフォローや安全管理等の役割を担います。元々映像セクションは設けていなかったのですが、コロナ禍で配信等の需要が増えたため、現在は映像関係も総合的に担当しています。

一仕事のやりがいや面白さはどんな所ですか

実は最初の会社には、音響スタッフとして入社したんです。人手が足りない時にたまたま照明を手伝った事がきっかけで、今に至りました。



その時に思ったのは、照明は目の前に自分の創ったものが視覚的に現れるので、それが面白いなど。大規模なステージでは数十人単位で明かりを創りますが、うまく合わさった時の一体感や、目の前でその光の中にお客様が溶け込んでいる光景を目にすると「いい空間だなあ〜」と、しみじみと幸せな気持ちになります(笑)。

一印象に残っている出来事はありますか

演劇の照明は劇場に来て初めて担当したのですが、劇場のオリジナル作品を創る「創造事業」を担当した際、本当にゼロから作品を立ち上げていく過程がとても新鮮で、やり遂げた!という達成感も大きかったです。リハーサルと本番、お客様がいる時といない時、本番が複数あればその都度空気感が変わりますし、そういうLIVEならではの肌感覚や熱量を感じられるのは、やっぱりこの仕事の醍醐味だなと思います。

一職場自慢、これから受験される皆さんへのメッセージをお願いします!

劇場は本当に幅広い催しをやっているのも、技術者としての幅が一気に広がり、とても勉強になります。全くの未経験から入ったスタッフもいますし、とにかく「やる気」があれば経験値は関係ありません。技術職に男性のイメージを持つ方もいるかもしれませんが、最近は機材なども軽くて、業界全体で男女は半々くらいです。公共ホールは勤務体系がしっかりしているので安心感もありますし、やりたい事には遠慮なくチャレンジしていける環境だと思うので、舞台や裏方に興味がある方には面白い仕事だと思います!

